

第3章 公共施設の利用や 今後のあり方に係る市民意識の状況

第3章 公共施設の利用や今後のあり方に係る市民意識の状況

1 市民意識の把握について

中長期的視点に立った本市の公共施設のあり方について検討するための基礎資料とすることを目的に「知立市の公共施設のあり方に関する市民アンケート調査」を実施した。調査対象は、平成 26 年 9 月 1 日現在の住民基本台帳から、20 歳以上の市民 4,000 人を無作為抽出した。実施期間は平成 26 年 10 月 3 日～27 日、郵送による配布・回収により、(1)今後の公共施設のあり方、(2)公共施設の利用状況、(3)公共施設に対する評価などについて調査した。

回収状況は有効回収数 1,376 票、回収率 34.4%となっている。

本章では、アンケート調査結果から、公共施設の利用状況や本市における今後の公共施設のあり方に係る市民意識の状況について取りまとめる。

図表 3-1 調査の概要

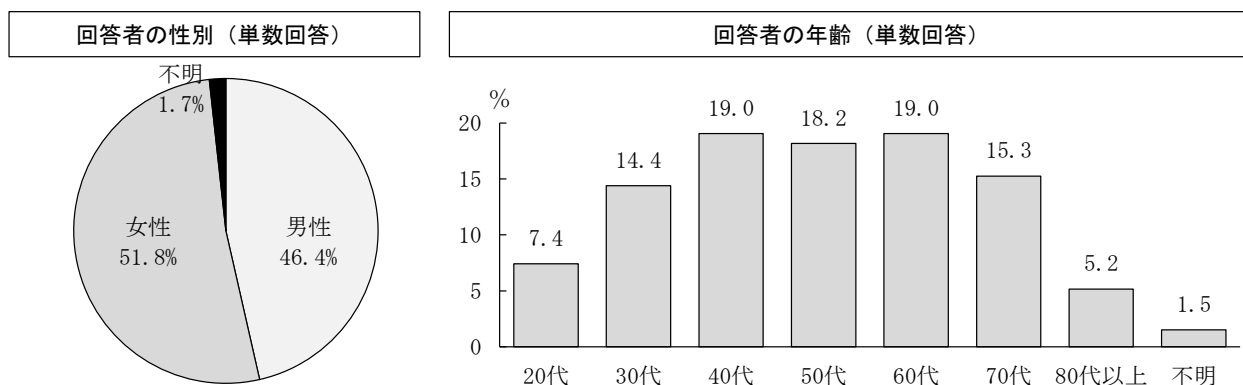
区 分	摘 要
目 的	中長期的視点に立った本市の公共施設のあり方について検討するための基礎資料とすることを目的に、知立市民に対してアンケート調査を実施。
調 査 名	知立市の公共施設のあり方に関する市民アンケート調査
調 査 対 象	平成 26 年 9 月 1 日現在の住民基本台帳から、20 歳以上の市民 4,000 人を無作為抽出。
調 査 項 目	(1) 今後の公共施設のあり方 ・公共施設の現状・課題への関心 ・今後の公共施設のあり方 (2) 公共施設の利用状況 ・市内公共施設の利用状況（過去 1 年間） ・市内の公共施設で行う活動 ・市外公共施設及び民間施設の利用状況（過去 1 年間） ・市外公共施設及び民間施設を利用する理由 ・市立の公共施設以外で行っていて、今後は市内公共施設で行いたい活動 (3) 公共施設に対する評価 ・公共施設のスペースについての評価 ・公共施設のソフト面についての評価 ・公共施設のハード面についての評価 (4) 個人属性 ・性 ・年齢 ・職業等 ・通勤・通学場所 ・居住地区 ・居住年数 (5) 自由記入
調 査 期 間	平成 26 年 10 月 3 日～27 日
調 査 方 法	配布は宅配業者メール便、回収は郵便 配布物はアンケート調査票、返信用封筒の 2 点

2 回答者の状況

(1) 性・年齢

回答者（1,376 人）の性別は男性 46.4%に対して女性 51.8%となっており、女性の回答割合が高くなっている。回答者の年齢については、「40 代」（19.0%）、「60 代」（19.0%）が最も高く、以下、「50 代」（18.2%）、「70 代」（15.3%）、「30 代」（14.4%）、「20 代」（7.4%）、「80 代以上」（5.2%）となっており、市の人口構成をおおむね反映した結果となっている。

図表 3－2 回答者の属性（性・年齢）



（注） n=1,376（有効回答数）、以下、注釈等がない場合は同じ

イ 職業等、通勤・通学先、居住地区、居住年数

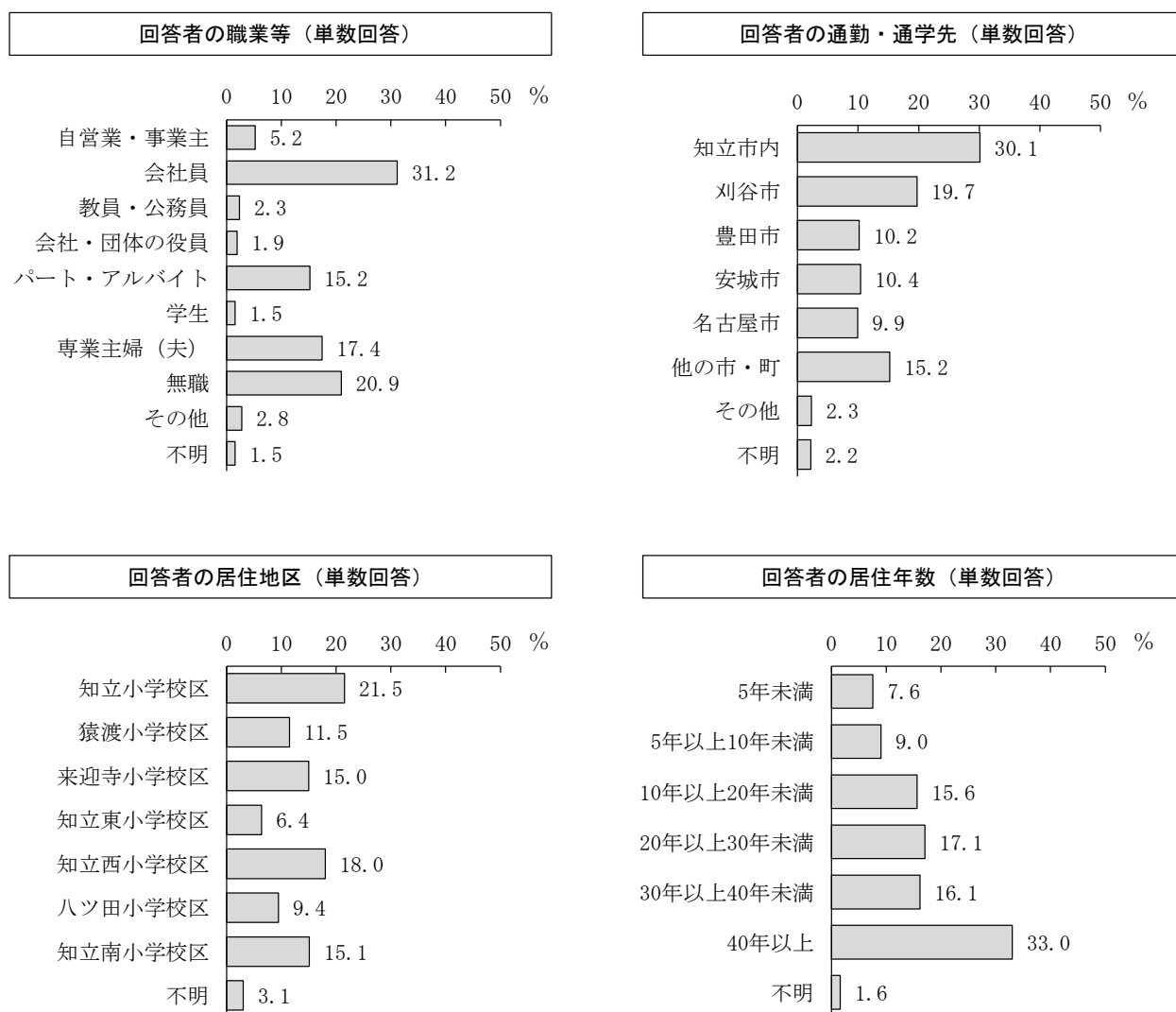
回答者の職業等については、「会社員」（31.2%）が最も高く、以下、「無職」（20.9%）、「専業主婦（夫）」（17.4%）、「パート・アルバイト」（15.2%）、「自営業・事業主」（5.2%）などとなっている。累計すると、パート・アルバイトを含む就業者の割合は 55.8%、学生、専業主婦（夫）、無職などの非就業者の割合は 39.8%となっている。

専業主婦（夫）、無職などを除いた通勤・通学をしている回答者は 827 人で、これら回答者の通勤・通学場所についてみると、「知立市内」（30.1%）が最も高く、以下、「刈谷市」（19.7%）、「安城市」（10.4%）、「豊田市」（10.2%）、「名古屋市」（9.9%）となっている。

回答者の平成 26 年 9 月現在の居住地区（小学校区）については、「知立小学校区」（21.5%）が最も高く、以下、「知立西小学校区」（18.0%）、「知立南小学校区」（15.1%）、「来迎寺小学校区」（15.0%）、「猿渡小学校区」（11.5%）、「八ツ田小学校区」（9.4%）、「知立東小学校区」（6.4%）となっている。

回答者の平成 26 年 9 月現在までの居住年数については、「40 年以上」（33.0%）が最も高く、以下、「20 年以上 30 年未満」（17.1%）、「30 年以上 40 年未満」（16.1%）となっている。

図表3-3 回答者の属性（職業等、通勤・通学先、居住地区、居住年数）



（注）「回答者の通勤・通学先」はn=827（職業等のうち、専業主婦（夫）、無職を除いた回答者数）

3 公共施設に対する関心

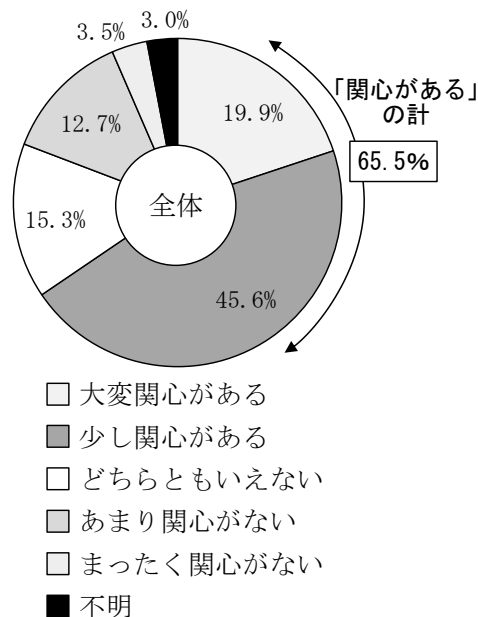
「市立公共施設の現状や課題についての関心」の有無については、「大変関心がある」(19.9%)、「少し関心がある」(45.6%)となっており、「関心がある」人の割合は65.5%となっている。

これに対して、「あまり関心がない」(12.7%)、「まったく関心がない」(3.5%)となっており、「関心がない」人の割合は16.2%にとどまる。

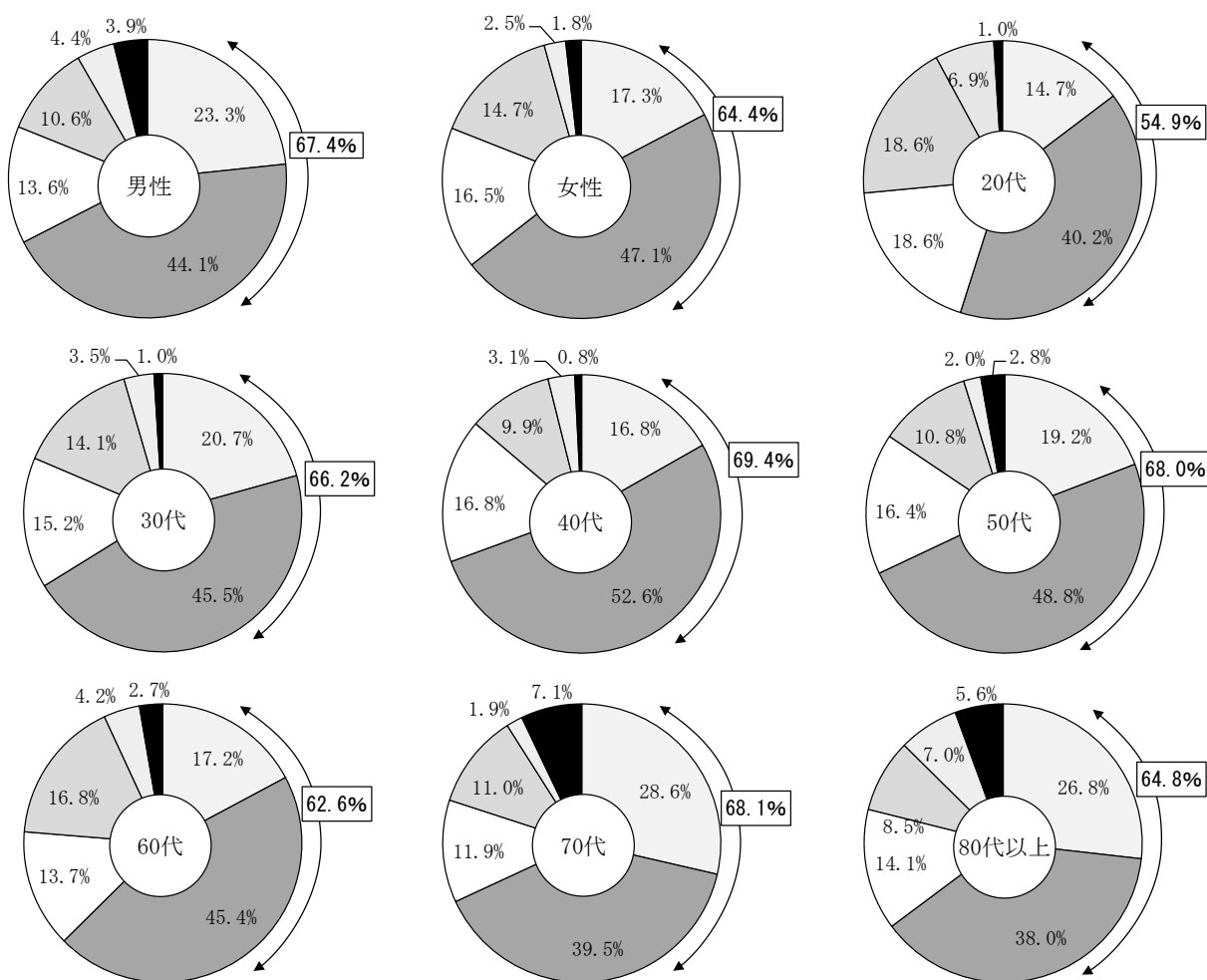
性別の「関心がある」人の割合をみると、男性は67.4%、女性は64.4%で、男性の割合が高くなっている。

年齢別の「関心がある」人の割合は、20代(54.9%)、60代(62.6%)の割合が低く、反対に、40代(69.5%)、50代(68.0%)、70代(68.1%)の割合が高くなっている。

図表3-4 公共施設に対する関心（単数回答）



図表3-5 性・年代別にみた公共施設に対する関心（単数回答）



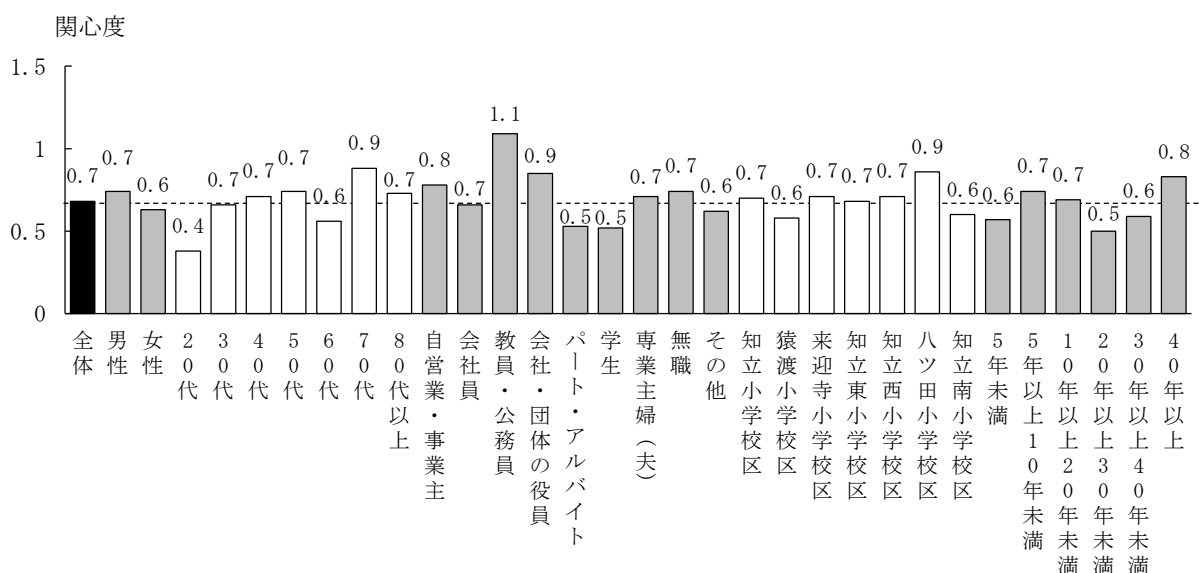
回答者の属性別の関心度をみるとため、「大変関心がある」2点、「少し関心がある」1点、「どちらともいえない」0点、「あまり関心がない」-1点、「まったく関心」-2点として加重平均を算出した。

回答者全体の関心度は平均0.7となっている。

属性別でみると、70代（関心度0.9）、自営業・事業主（0.8）、教員・公務員（1.1）、会社・団体の役員（0.9）、八ツ田小学学区在住（0.9）、居住歴40年以上（0.8）の回答者の関心度が高くなっている。

反対に20代（0.4）、60代（0.6）、パート・アルバイト（0.5）、学生（0.5）、猿渡小学校区・知立南小学校区在住（0.6）、居住歴5年未満（0.6）、20年以上30年未満（0.5）、30年以上40年以上未満（0.6）の関心度が低くなっている。

図表3-6 性・年代別にみた公共施設に対する関心度（加重平均値）



（注）関心度：「大変関心がある」2点、「少し関心がある」1点、「どちらともいえない」0点、「あまり関心がない」-1点、「まったく関心」-2点として加重平均を算定

4 今後の公共施設のあり方

今後の公共施設のあり方として、①施設総量・整備費の圧縮、②民間活力の活用、③地域への施設譲渡、④施設の長寿命化、⑤民間施設の利用料助成、⑥未利用土地・施設の資産売却・賃貸、⑦サービス水準の引下げ、⑧使用料の引上げ、⑨低利用施設の廃止・縮小の9項目の取組意向を調査した。

また、評価値は、「実施すべき」2点、「どちらかといえば実施すべき」1点、「どちらかといえば実施すべきではない」-1点、「実施すべきではない」-2点として、9項目それぞれで加重平均を算出した。評価値がプラスの場合は「実施に賛成」、マイナスの場合は「実施に反対」、ゼロの場合は「賛否が相反」として各取組を評価した。

(1) 項目別の取組意向

① 施設総量・整備費の圧縮

現在ある公共施設の統廃合によって施設の総量や整備費を減らす「施設総量・整備費の圧縮」の取組については、「どちらかといえば実施すべき」(27.3%)が最も高く、以下、「実施すべき」(23.3%)、「わからない」(19.2%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(14.0%)、「実施すべきではない」(10.2%)が続く。評価値は+0.4となっており、実施に賛成な人の割合が高くなっている。

② 民間活力の活用

公共施設の更新(建替え)や管理運営に民間のノウハウや資金を活用する「民間活力の活用」については、「どちらかといえば実施すべき」(34.3%)が最も高く、以下、「実施すべき」(29.5%)、「わからない」(17.5%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(9.3%)、「実施すべきではない」(3.9%)が続く。評価値は+0.8となっており、実施に賛成する割合が高くなっている。

③ 地域への施設譲渡

地域に密着した公共施設は、地域住民などへ譲渡し、維持管理を委ねる「地域への施設譲渡」については、「どちらかといえば実施すべき」(26.9%)が最も高く、以下、「わからない」(22.5%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(18.9%)、「実施すべきではない」(12.9%)、「実施すべき」(12.9%)が続く。評価値は+0.1となっており、実施の賛否が分かれる意見となっている。

④ 施設の長寿命化

現在の公共施設を改修するなどして、できるだけ長い間使用する「施設の長寿命化」については、「どちらかといえば実施すべき」(38.8%)が最も高く、以下、「実施すべき」(26.3%)、「わからない」(16.1%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(8.6%)、「実施すべきではない」(4.8%)が続く。評価値は+0.8となっており、実施に賛成の割合が高くなっている。

⑤ 民間施設の利用料助成

公共施設を減らす代わりに民間施設の使用料を助成する「代替可能な民間施設の利用料助成」については、「どちらかといえば実施すべき」(28.1%)が最も高く、以下、「わからない」(18.0%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(17.8%)、「実施すべき」(15.7%)、「実施すべきではない」(14.3%)が続く。評価値は+0.1で、賛否が分かれる意見となっている。

⑥ 未利用土地・施設の売却・賃貸

現在、利用されていない土地や施設を売却、賃貸して収入を得る「未利用の土地・施設の売却・賃貸」については、「実施すべき」(44.5%)が最も高く、以下、「どちらかといえば実施すべき」(31.1%)、「わからない」(11.7%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(3.6%)、「実施すべきではない」(3.1%)が続く。評価値は+1.2となっており、取組に賛成の割合が高くなっている。

⑦ サービス水準の引下げ

運営費の削減や運営時間の短縮など、コストを削減するための「サービス水準の引下げ」については、「どちらかといえば実施すべきではない」(27.4%)が最も高く、以下、「実施すべきではない」(22.5%)、「どちらかといえば実施すべき」(17.6%)、「わからない」(14.2%)、「実施すべき」(12.6%)が続く。評価値は-0.3となっており、反対の割合が高くなっている。

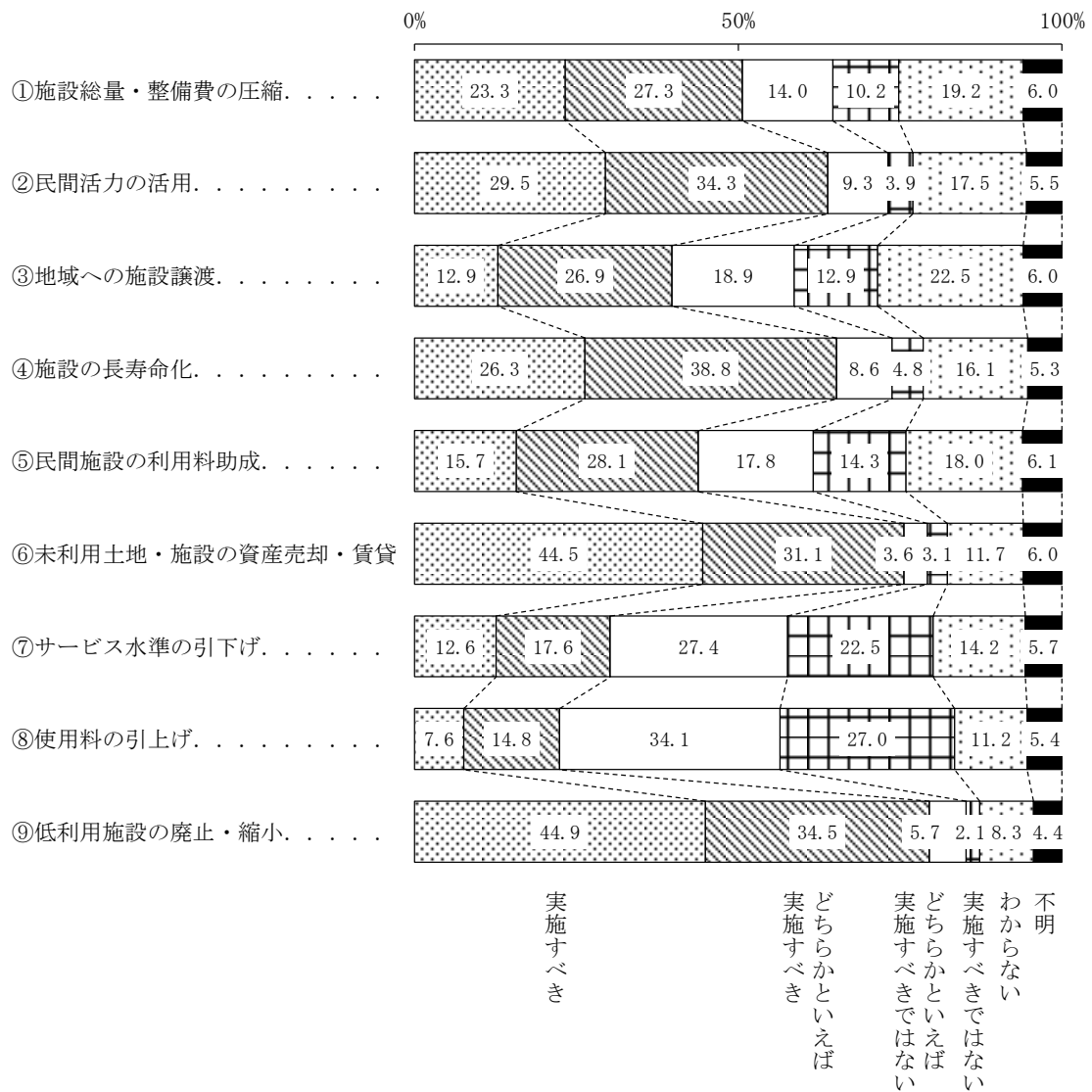
⑧ 使用料の引上げ

利用者などの公共施設の受益者に対して、応分・応能の使用料金、利用料金を負担してもらう「使用料等の引上げ」については、「どちらかといえば実施すべきではない」(34.1%)が最も高く、以下、「実施すべきではない」(27.0%)、「どちらかといえば実施すべき」(14.8%)、「わからない」(11.2%)、「実施すべき」(7.6%)が続く。評価値は-0.6で、9項目の取組のなかで最も反対の意見が強くなっている。

⑨ 低利用施設の廃止・縮小

あまり利用されていない公共施設は廃止又は縮小する「低利用施設の廃止・縮小」については、「実施すべき」(44.9%)が最も高く、以下、「どちらかといえば実施すべき」(34.5%)、「わからない」(8.3%)、「どちらかといえば実施すべきではない」(5.7%)、「実施すべきではない」(2.1%)が続く。評価値は+1.2となっており、他の取組と比較して賛成の割合が高い。

図表３－７ 今後の公共施設管理のあり方



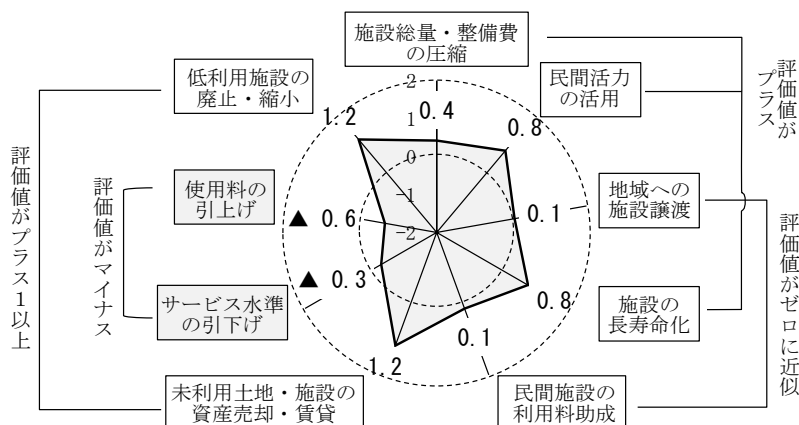
(2) 評価値

ア 全体評価

評価値がプラスであった取組は「未利用土地・施設の資産売却・賃貸」(1.2)、「低利用施設の廃止・縮小」(1.2)、「施設総量・整備費の圧縮」(0.4)、「民間活力の活用」(0.8)の4つの取組であった。

これに対して、評価値がマイナスであった取組は「サービス水準の引下げ」(-0.3)、「使用料の引上げ」(-0.6)の2つの取組となっている。また、評価値がゼロの近似値は「地域への施設譲渡」(0.1)、「民間施設の利用料助成」(0.1)の2つの取組となっている。

図表3-8 今後の公共施設管理のあり方（加重平均値）



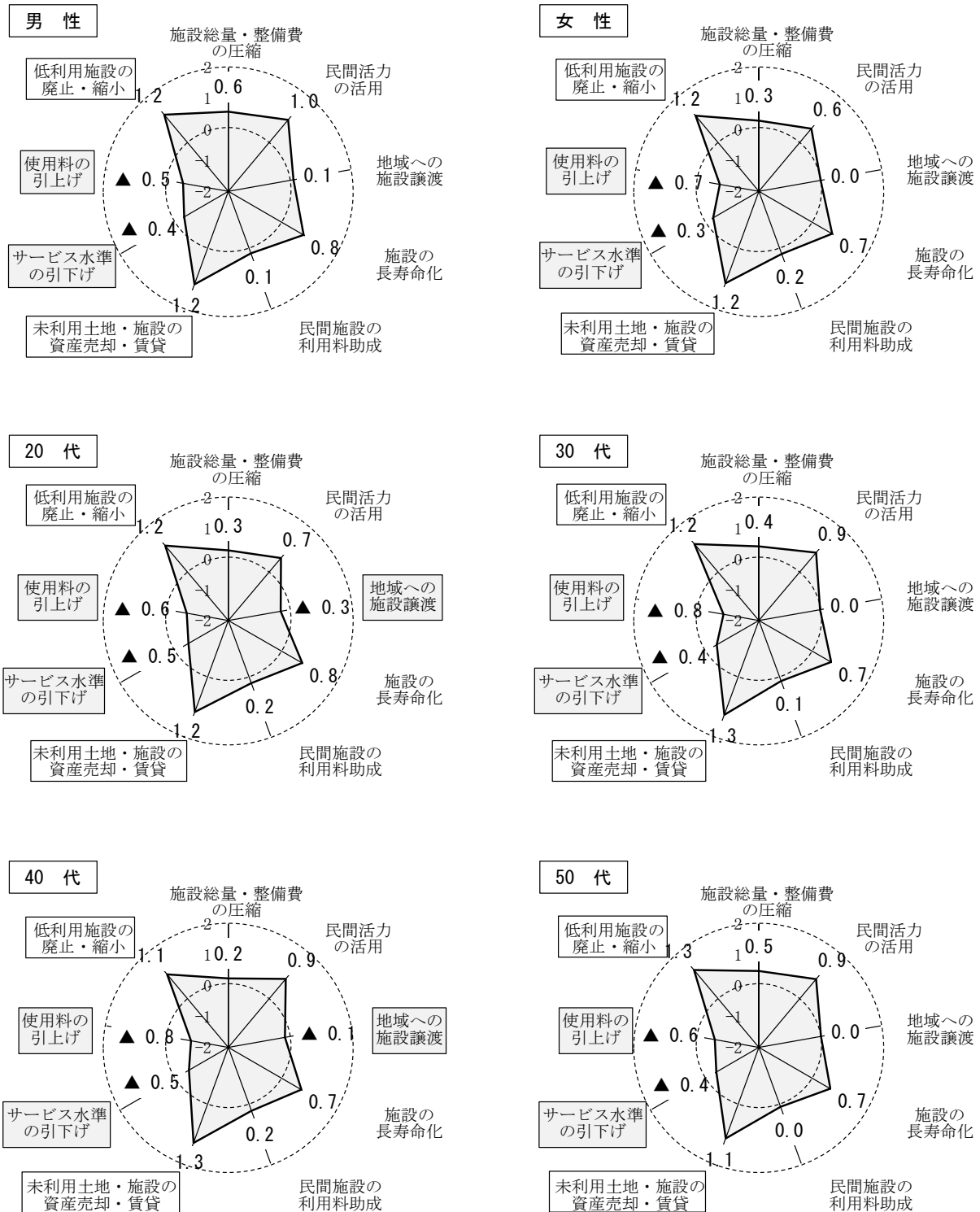
(注) 「実施すべき」2点、「どちらかといえば実施すべき」1点、「どちらかといえば実施すべきではない」-1点、「実施すべきではない」-2点として加重平均を算出

イ 性・年代別の評価

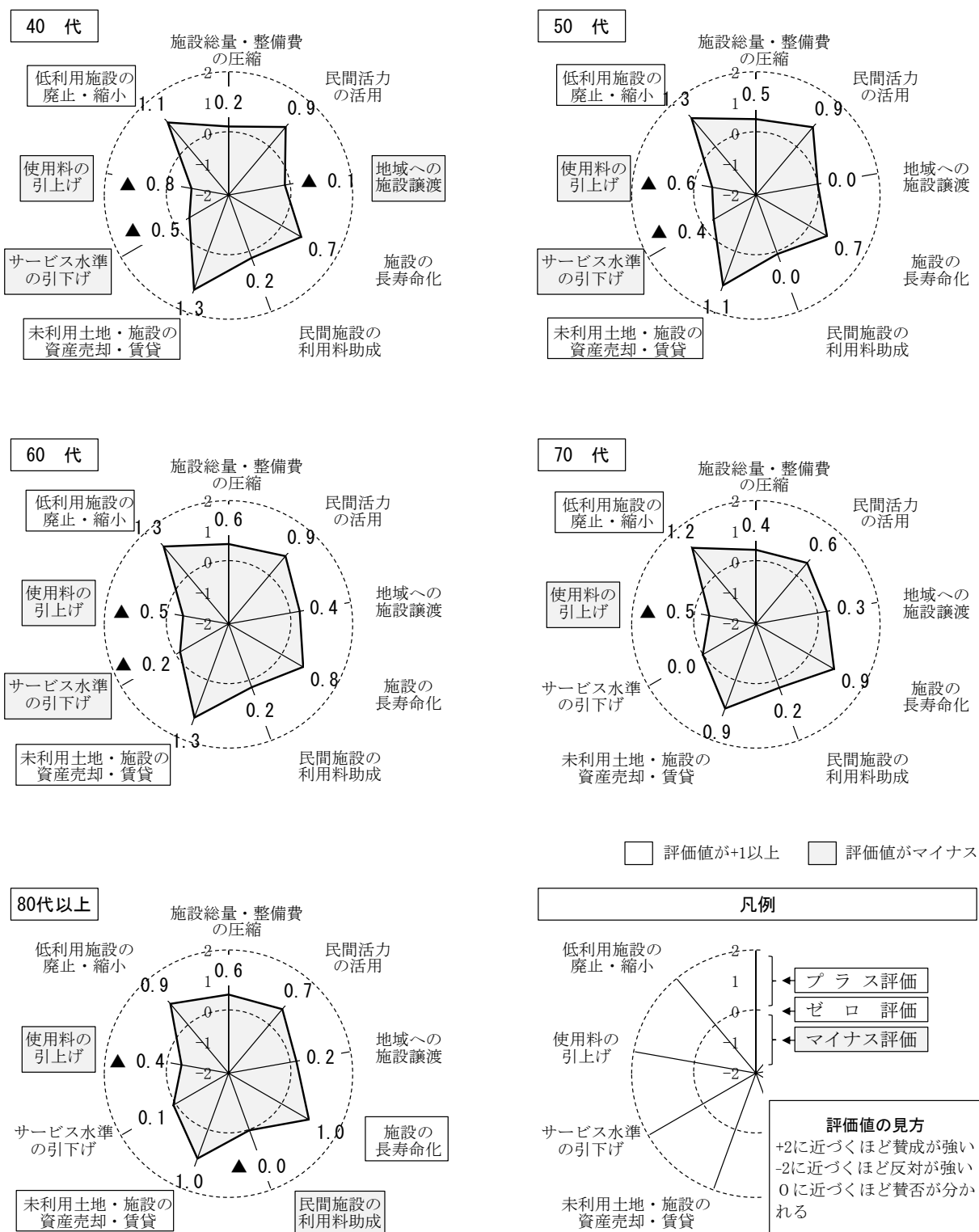
性・年代別でみると、男女及び各年代とも「使用料の引上げ」については、マイナスの評価となっており、特に女性 (-0.7)、30代 (-0.8)、40代 (-0.8) では厳しい評価となっている。「サービス水準の引下げ」については、70代、80代以上を除く各年代でマイナス評価となっている。

プラス評価についてみると、70代、80代以上を除く各年代において、「低利用施設の廃止・縮小」、「未利用土地・施設の資産売却・賃貸」の2つが+1以上の評価となっている。70代では「低利用施設の廃止・縮小」、80代以上では「未利用土地・施設の資産売却・賃貸」、「施設の長寿命化」が+1以上の評価となっている。

図表 3-9 性別にみた公共施設管理のあり方（加重平均値）



図表3-10 年代別にみた公共施設管理のあり方（加重平均値）



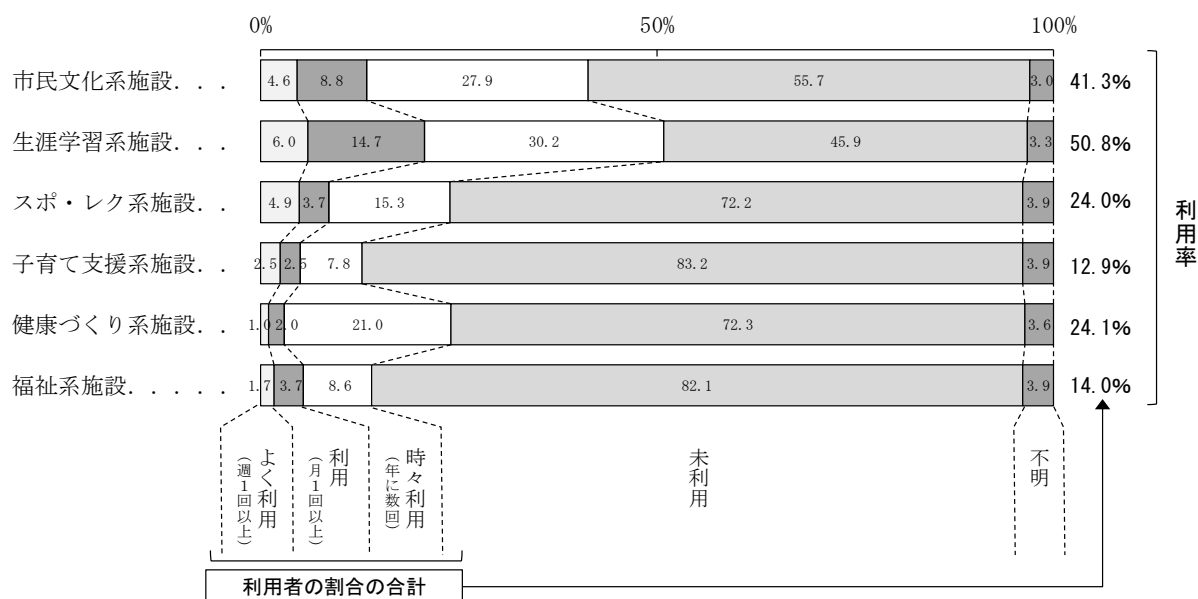
5 公共施設の利用状況

過去1年間の市民の公共施設の利用状況を把握するため、市民利用型の施設（いわゆる公の施設に該当するもの）を6つの施設種別に分けて、それぞれの利用状況について把握した。

また、利用率として、過去1年間に一度でも利用したことのある人の割合の合計値（「時々利用している」、「利用している」、「よく利用している」の合計）を算定した。

各施設種別の利用率については、多様な市民が利用できる「市民文化系施設（知立市文化会館、知立文化広場、西丘コミュニティセンター、中央公民館、猿渡公民館、もやいこハウス）」（41.3%）、「生涯学習系施設（図書館、八橋史跡保存館、歴史民俗資料館、燕子庵）」（平均利用率 50.8%）では高く、利用者が特定される「子育て支援系施設（保育園、児童センター、子育て支援センター）」（12.9%）、「福祉系施設（昭和老人憩いの家、老人福祉センター、身体障害者福祉センター、地域福祉センター、いきがいセンター、かとれあワークス）」（14.0%）では低くなっている。また、利用目的が明確な「スポーツ・レクリエーション系施設（市民体育館、昭和グラウンド、知立市野外センター）」（24.0%）、「健康づくり系施設（保健センター）」（24.1%）では20%台の利用率となっている。

図表3-11 用途別にみた公共施設の利用頻度及び利用率



利用者属性別の利用状況をみると、知立市文化会館などの市民文化系施設は、性・年齢では女性、60代、70代、職業等では教員・公務員、会社・団体の役員、専業主婦（夫）、無職の利用率が高く、特に教員・公務員、会社・団体の役員、専業主婦（夫）では50%以上の利用率となっている。

図書館が含まれる生涯学習系施設は利用率 50.8%と高くなっており、性・年齢では男性、女性、20代、30代、40代、職業等では会社員、教員・公務員、パート・アルバイト、学生、専業主婦（夫）の利用率が高くなっている。

スポーツ・レクリエーション系施設は、性・年齢では男性、40代、70代、職業等では自営業・事

業主、教員・公務員、会社・団体の役員、専業主婦（夫）の利用率が高くなっている。

子育て支援系施設は、性年齢では女性、30代、40代といった子育て当事者となる属性、職業等では会社員、専業主婦（夫）の利用率が高くなっている。

健康づくり系施設（＝健康センター）は、性・年齢では女性、30代、70代、職業等では教員・公務員、会社・団体の役員、専業主婦（夫）の利用率が高くなっている。

福祉系施設については、性・年齢では女性及び60代、70代、80代以上の高齢者、職業等では教員・公務員、専業主婦（夫）、無職の利用率が高くなっている。

図表3－12 回答者属性別にみた公共施設の利用率



(注) 各施設別の回答者の利用率のうち、利用率が50%以上の属性には★、平均利用率が平均利用率以上の属性には☆

6 市立（市内）の公共施設で行われている活動

回答者の過去 1 年間の公共施設の利用状況を整理すると、過去 1 年間に公共施設のいずれかを利用した人は 968 人（70.3%）、施設をまったく利用しなかった人は 384 人（27.9%）となっている。

公共施設のいずれかを利用した人に対しては、施設で行った活動の内容を 2 つまで調査した。具体的な活動内容について回答があったのは、890 人（64.7%）で、累計で 1,424 活動について具体的な回答があった（1 人平均 1.6 活動を回答）。

(1) 施設全般

ア 活動者の属性

市立（市内）の公共施設を利用して現在活動を行っている回答者（延べ 1,424 人）の属性をみると、性別では男性 44.2%に対して女性 54.4%となっており、女性の割合が高い。

年齢別では 20 代（6.5%）、80 代以上（4.6%）の割合は比較的低いが、その他の年代では 40 代（20.8%）を中心に各年代ともに 15%以上を占めており、多様な年代が公共施設を利用している現状にある。

職業等別では会社員（28.4%）、パート・アルバイト（14.9%）、専業主婦（夫）（21.2%）、無職（20.4%）では比較的高い割合を示すが、自営業・事業主（4.9%）、教員・公務員（2.7%）、会社・団体役員（2.0%）、学生（1.3%）では 5%未満となっており、職業等の違いによって活動する人の割合が異なる現状にある。

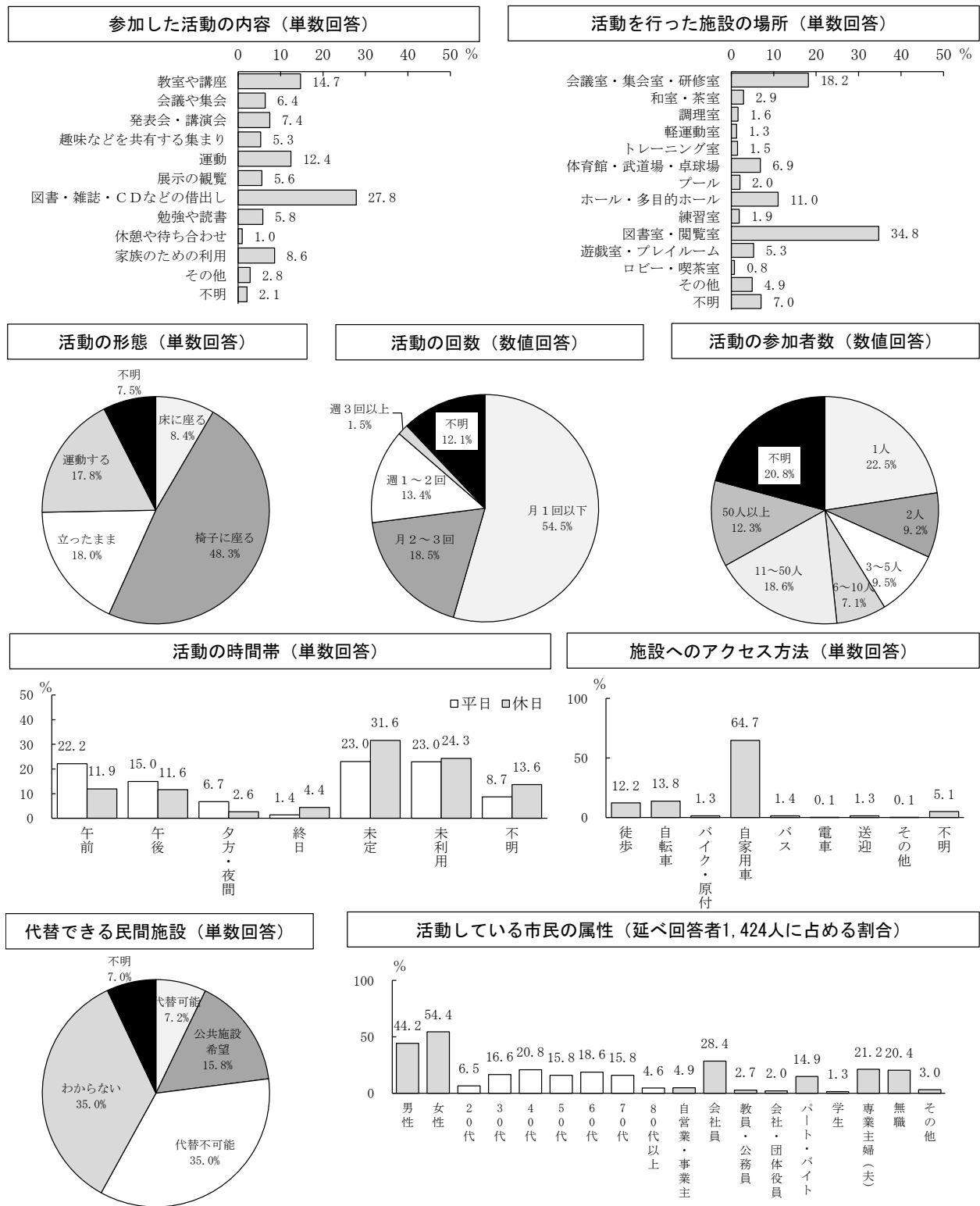
イ 活動内容・場所

回答のあった 1,424 活動の中では、図書館、中央公民館などの利用が高くなっている。このため、活動内容は「図書・雑誌・CDなどの借出し」（27.8%）、活動場所は「図書室・閲覧室」（34.8%）が高い割合を示している。

ウ 活動形態

活動の形態は「椅子に座る」（48.3%）、活動回数は月 1 回以下（54.5%）、参加者は「1 人」（22.5%）が多くなっている。

図表3-13 市内公共施設で実施されている市民活動

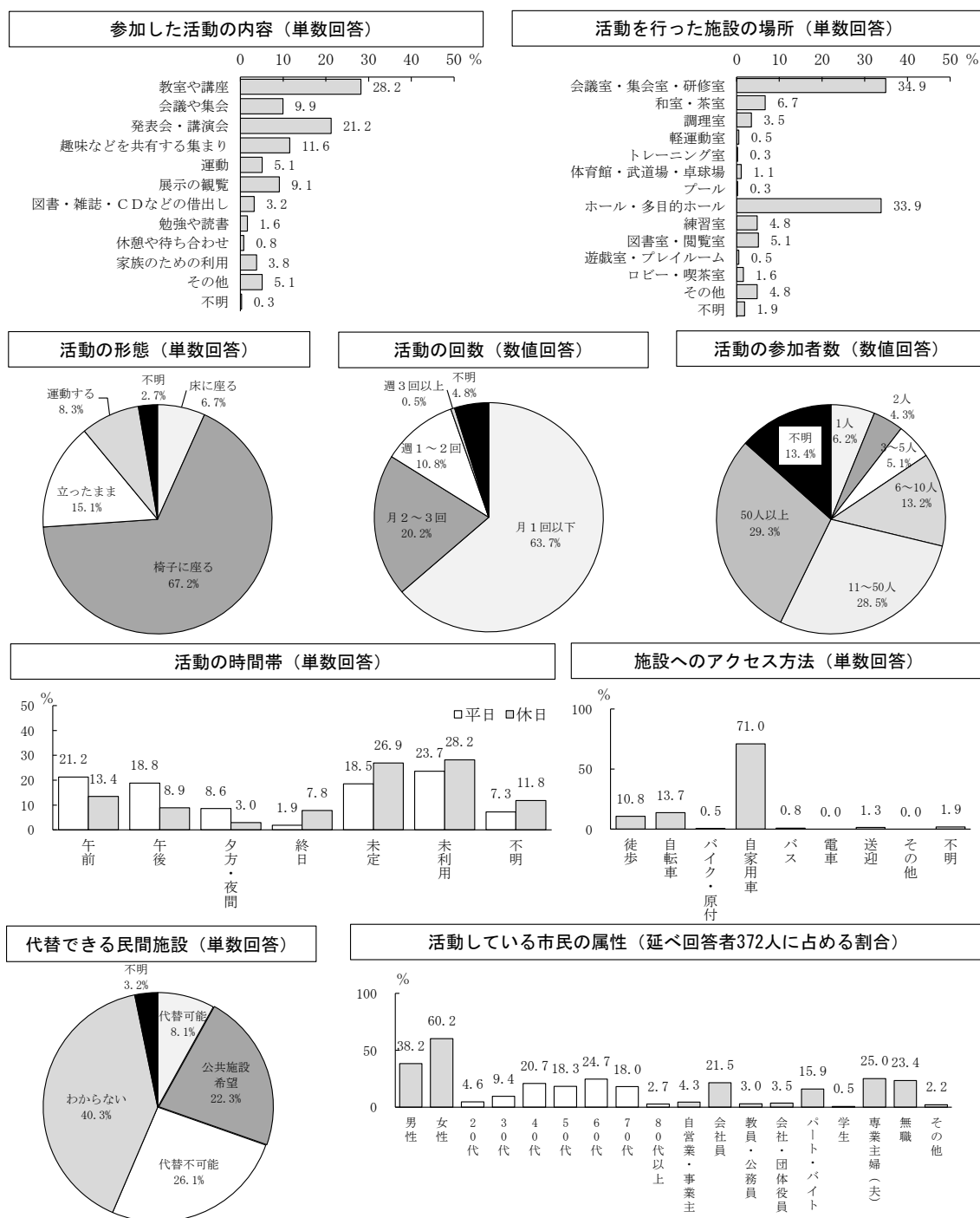


(2) 施設種別にみた活動

ア 「市民文化系施設」で行われている活動

市内の市民文化系施設は、知立市文化会館、知立文化広場、西丘コミュニティセンター、中央公民館、猿渡公民館、もやいこハウスとなっている。活動内容は「教室・講座」(28.2%)、「発表会・講演会」(21.2%)、活動場所は「会議室・集会室・研修室」(34.9%)、「ホール・多目的ホール」(33.9%)が高くなっている。活動形態は「椅子に座る」(67.2%)、活動回数は「月1回以下」(63.7%)、活動参加者は「11人以上」(28.5%)の集団型が高くなっている。

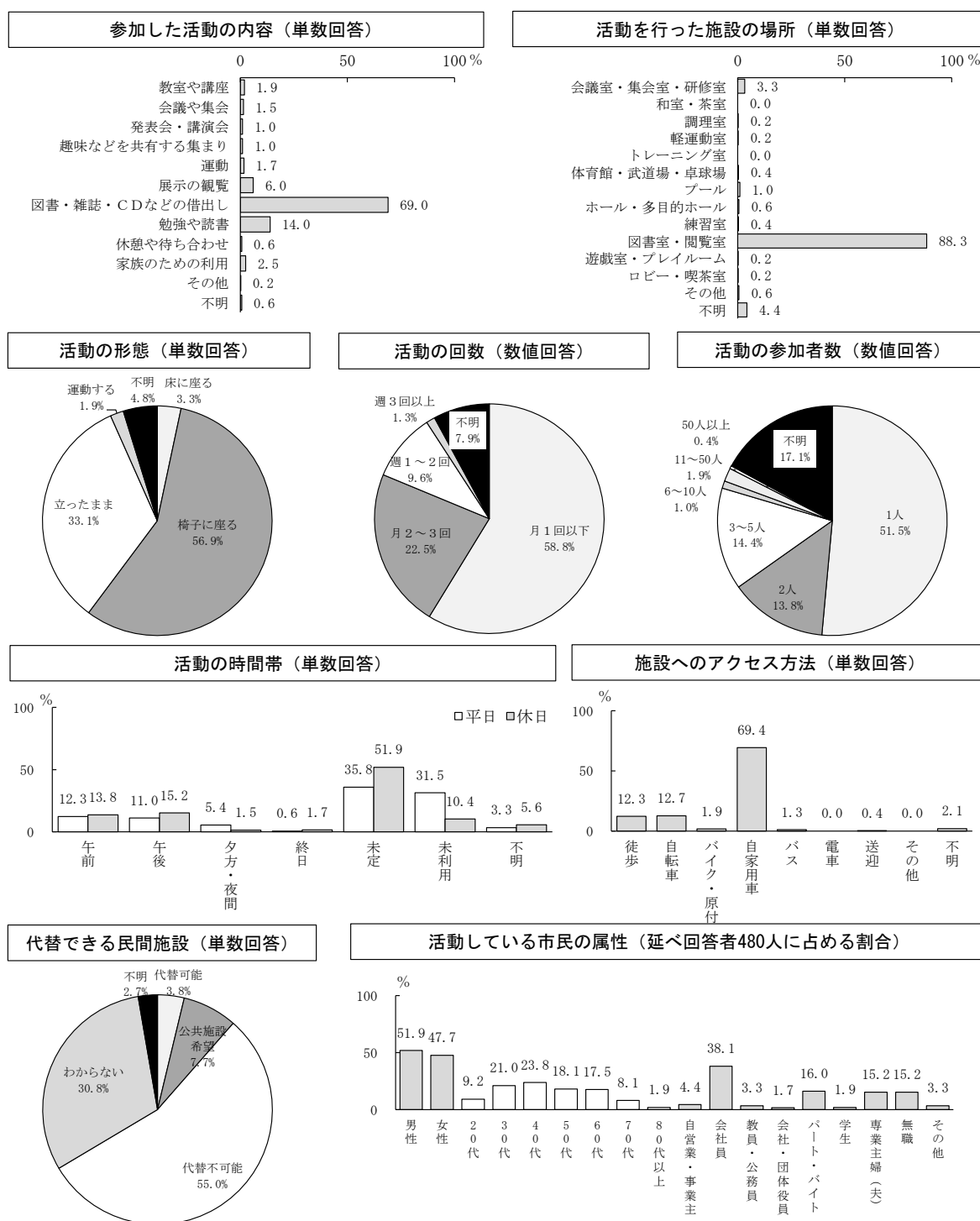
図表3-14 市民文化系施設の市民活動



イ 「生涯学習系施設」で行われている活動

市内の生涯学習系施設は、図書館、八橋史跡保存館、歴史民俗資料館、燕子庵で、このうち図書館の利用率が高くなっている。活動内容は「図書等の借出し」(69.0%)、「勉強や読書」(14.0%)、活動場所は「図書室・閲覧室」(88.3%)と図書館を利用した内容となっている。活動形態は「椅子に座る」(56.9%)、活動回数は「月1回以下」(58.8%)、参加者は「1人」(51.5%)の個人型となっている。回答者の属性は男性、30代、40代、会社員などの割合が高い。

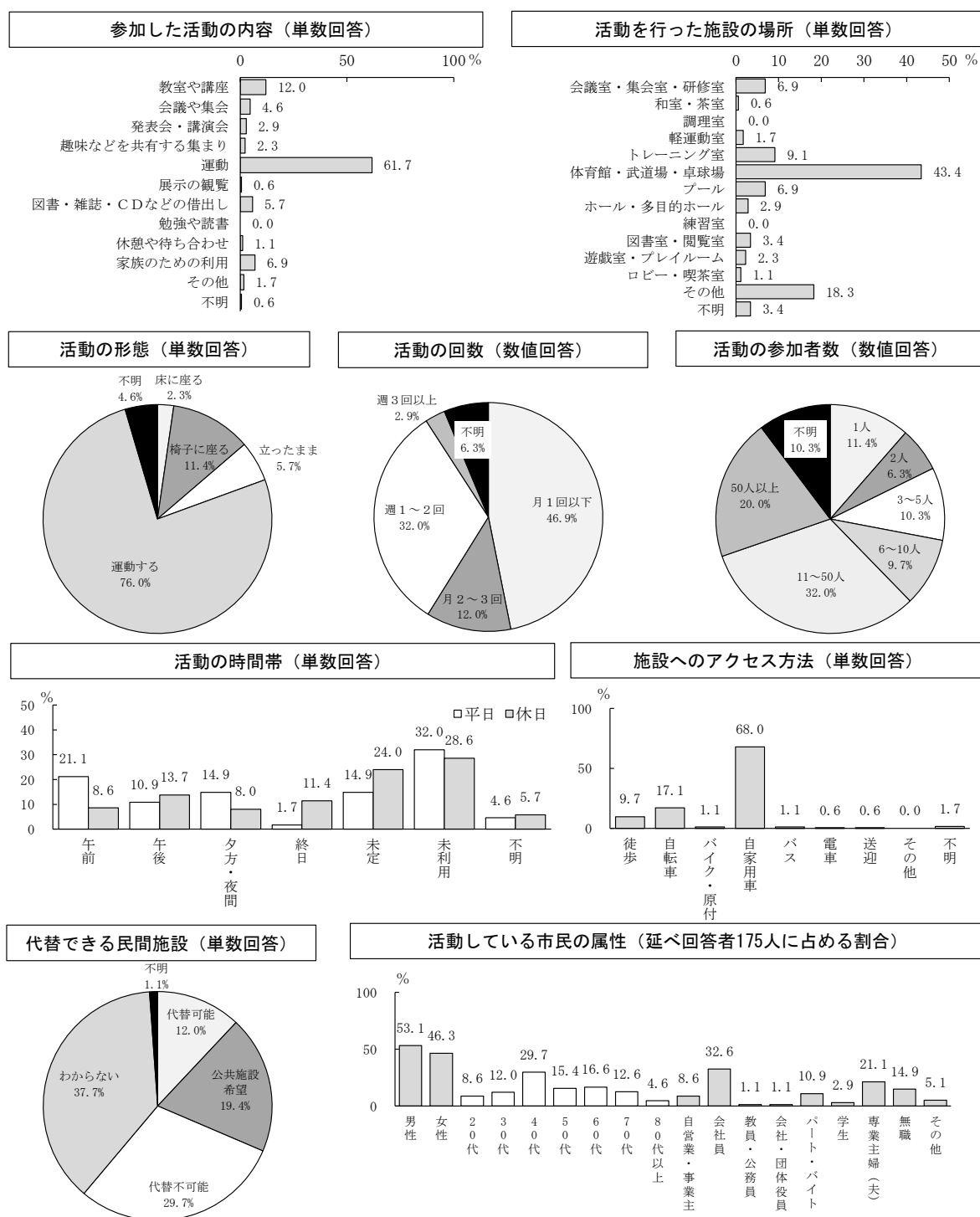
図表3-15 生涯学習系施設の市民活動



ウ 「スポーツ・レクリエーション施設」で行われている活動

市内のスポーツ・レクリエーション系施設は、市民体育館、昭和グラウンド、知立市野外センターとなっている。活動内容は「運動」(61.7%)で、活動場所は「体育館・武道場・卓球場」(43.4%)、「トレーニング室」(9.1%)となっている。活動形態は「運動する」(76.0%)、活動回数は「月1回以下」(46.9%)と「週1～2回」(32.0%)、参加者は「11人以上」(32.0%)の集団型となっている。回答者の属性は男性、40代などが高い。

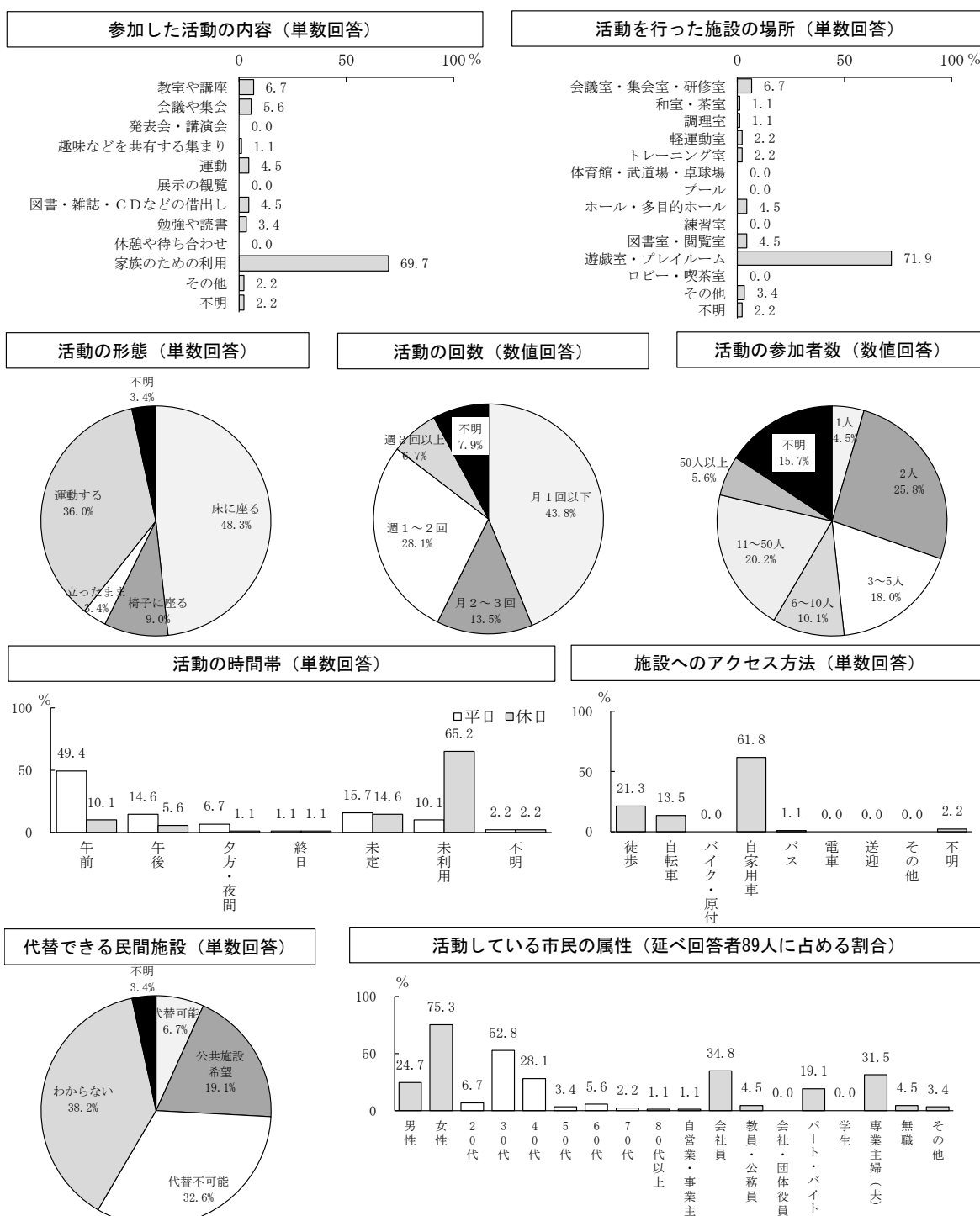
図表3-16 スポーツ・レクリエーション系施設の市民活動



エ 「子育て支援系施設」で行われている活動

市内の子育て支援系施設は保育園(10か所)、児童センター(8か所)、子育て支援センター(3か所)となっている。活動内容は「家族のための利用」(=子どもための利用)(69.7%)、活動場所は「遊戯室・プレイルーム」(71.9%)で、活動形態は「床に座る」(48.3%)と「運動する」(36.0%)、活動回数は「月1回以下」(43.8%)と「週1～2回」(28.1%)となっている。参加者規模は多様で、属性は女性、30代、40代、会社員、専業主婦(夫)が高くなってる。

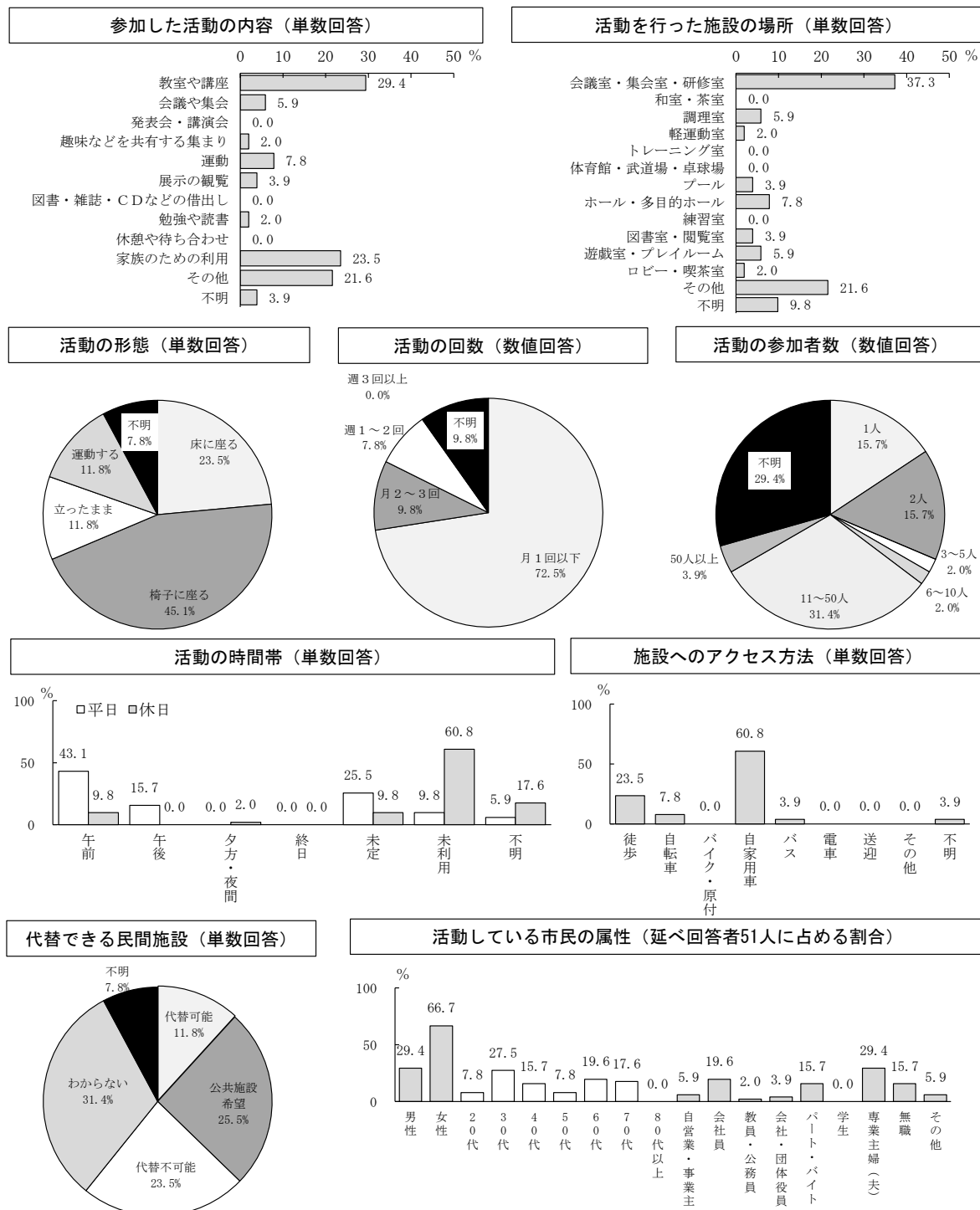
図表3-17 子育て支援系施設の市民活動



オ 「健康づくり系施設」で行われている活動

市内の健康づくり系施設は、保健センターとなっている。活動内容は「教室や講座」(29.4%)、「家族のための利用」(23.5%)、活動場所は「会議室・集会所・研修室」(37.3%)が高くなっている。活動形態は「椅子に座る」(45.1%)、活動回数「月1回以下」(72.5%)、参加者は「11～50人」(31.4%)が高くなっている。回答者の属性は、女性、30代、専業主婦(夫)が高くなっている。

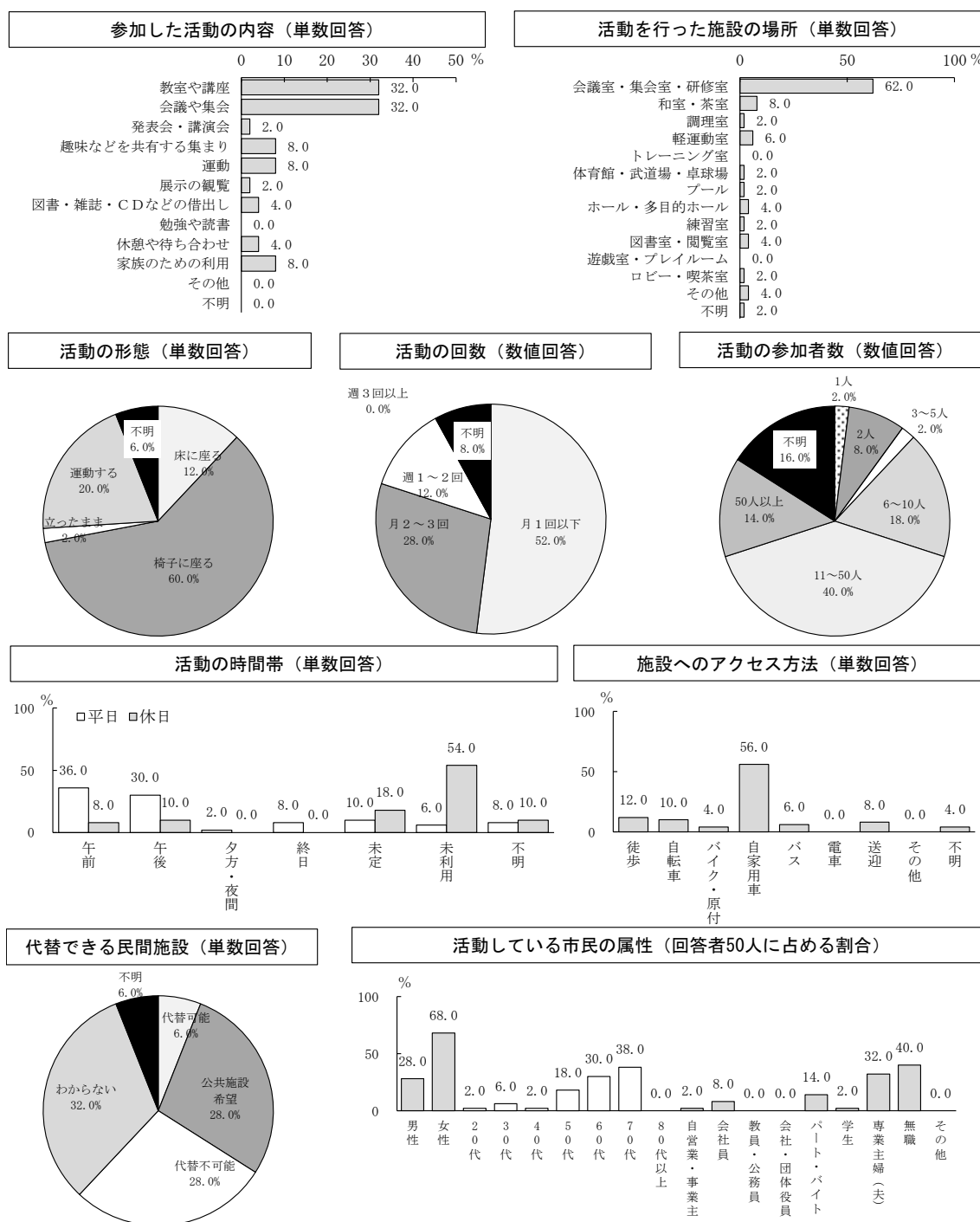
図表3-18 健康づくり系施設の市民活動



カ 「福祉系施設」で行われている活動

市内の福祉系施設は、昭和老人憩いの家、老人福祉センター、身体障害者福祉センター、地域福祉センター、いきがいセンター、かとれあワークスとなっている。活動内容は「教室や講座」・「会議や集会」（32.0%）、活動場所は「会議室・集会所・研修所」（62.0%）が高くなっている。活動形態は「椅子に座る」（60.0%）、活動回数は「月1回以下」（52.0%）、「月2～3回」（28.0%）、参加人数は「11～50人」（40.0%）が高くなっている。回答者の属性は、女性、50代、60代、70代、専業主婦（夫）、無職が高くなっている。

図表3-19 福祉系施設の市民活動



7 市外の公共施設や市内外の民間施設の利用

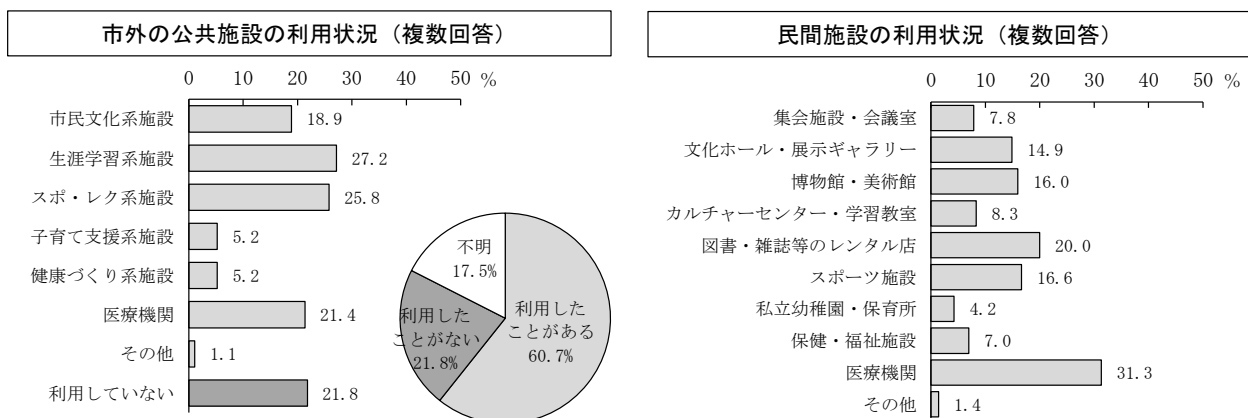
(1) 利用状況

県や他市町村などが保有する市外の公共施設の過去1年間の利用状況については、「いずれかの施設を利用したことがある人」は60.7%、「市外の公共施設は利用していない人」は21.8%となっている。

利用した施設をみると、「生涯学習活動を支援する施設（図書館、博物館、美術館など）」（27.2%）、「スポーツやレクリエーションを行える施設（体育館、グラウンド、プール、宿泊施設など）」（25.8%）、「医療機関（公立病院・診療所など）」（21.4%）が高くなっている。

公共施設と類似した機能を有する市内・市外の民間施設の利用状況については、「医療機関（私立病院・診療所など）」（31.3%）が最も高く、以下、「図書・雑誌・CDなどのレンタル店」（20.0%）、「スポーツ施設（コート、フィットネス施設など）」（16.6%）、「博物館、美術館」（16.0%）、「文化ホール、展示ギャラリー」（14.9%）などとなっている。

図表3-20 市外の公共施設や市内外の民間施設の利用

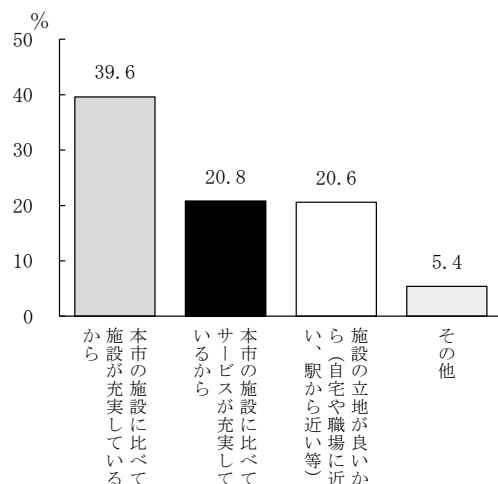


(2) 他施設を利用する理由

市立公共施設ではなく、他市町村の公共施設や民間施設を利用した理由については、「本市の施設に比べて施設が充実しているから【施設面】」（39.6%）、「本市の施設に比べてサービスが充実しているから【サービス面】」（20.8%）、「施設の立地が良いから（自宅や職場に近い、駅から近いなど）【立地面】」（20.6%）となっている。

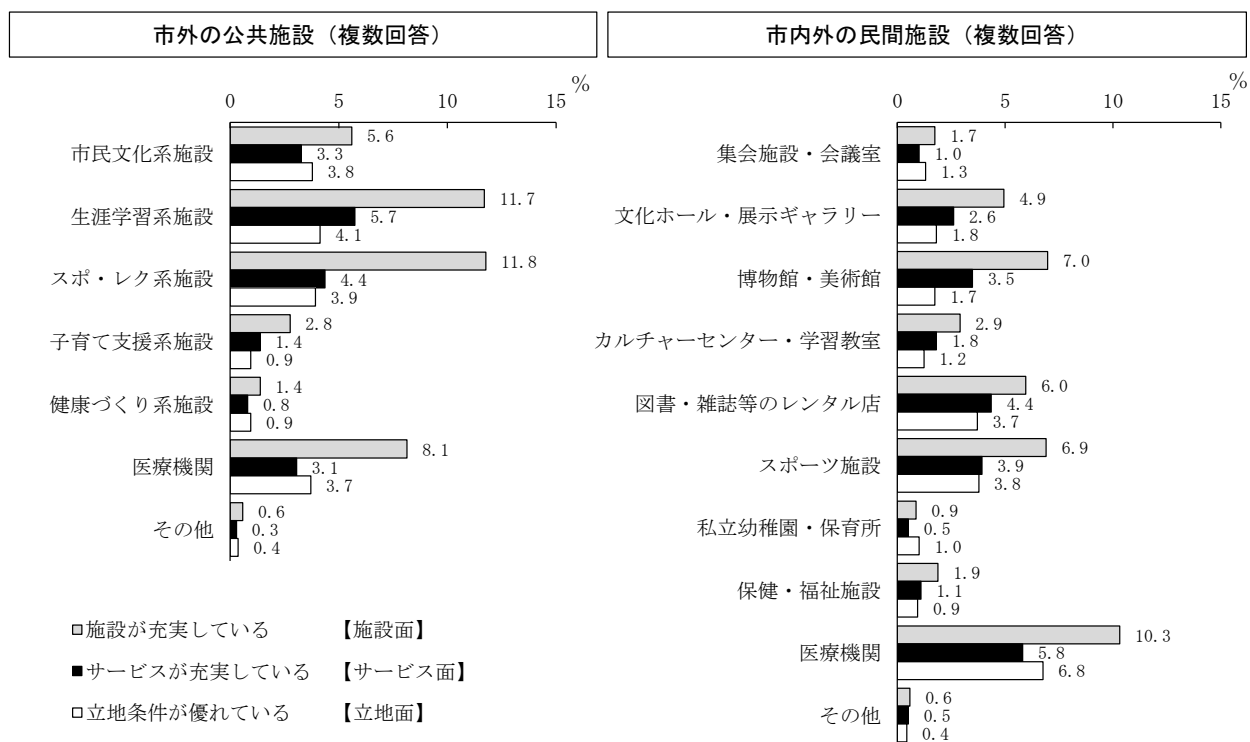
こうした理由に該当する施設として回答者が考えている施設をみると、施設面については、生涯学習系施設（11.7%）、スポーツ・レクリエーション系施設（11.8%）、医療機関（公立 8.1%、民間 10.3%）を

図表3-21 他施設を利用する理由（複数回答）



挙げる回答者の割合が高い。サービス面については、施設面と比較すると該当する施設を挙げる回答者の割合は低くなっているが、比較的高い施設をみると、生涯学習系施設、スポーツ・レクリエーション系施設、図書・雑誌のレンタル店、医療機関（民間）などとなっている。

図表3-22 他施設を利用する理由別にみた市外公共施設・市内外民間施設

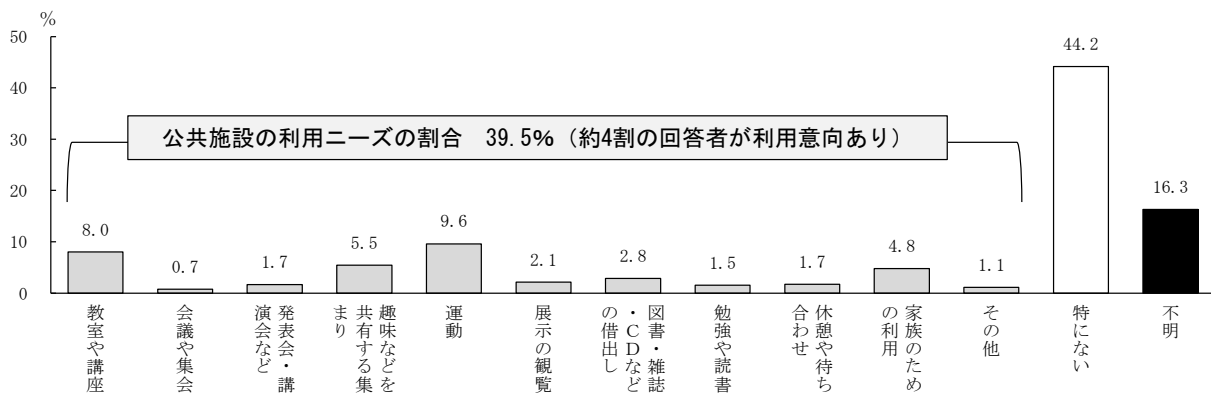


8 公共施設を利用して行いたい活動

今後、市立公共施設を使用して行いたい活動の有無については、何らかの活動があると回答した人の割合は39.5%、「特になし」と回答した人は44.2%となっている。

実施したい活動の内容は、「運動のための利用」(9.6%)が最も高く、以下、「教室や講座への参加」(8.0%)、「趣味などを共有する集まりへの参加」(5.5%)、「家族(子どもやお年寄り)のための利用」(4.8%)、「図書・雑誌・CDなどの借出し」(2.8%)、「展示の観覧」(2.1%)、「休憩や待ち合わせのための利用」(1.7%)、「発表会・講演会などへの参加」(1.7%)、「勉強や読書」(1.5%)となっている。

図表3-23 市内の公共施設を利用して行いたい活動（SA）

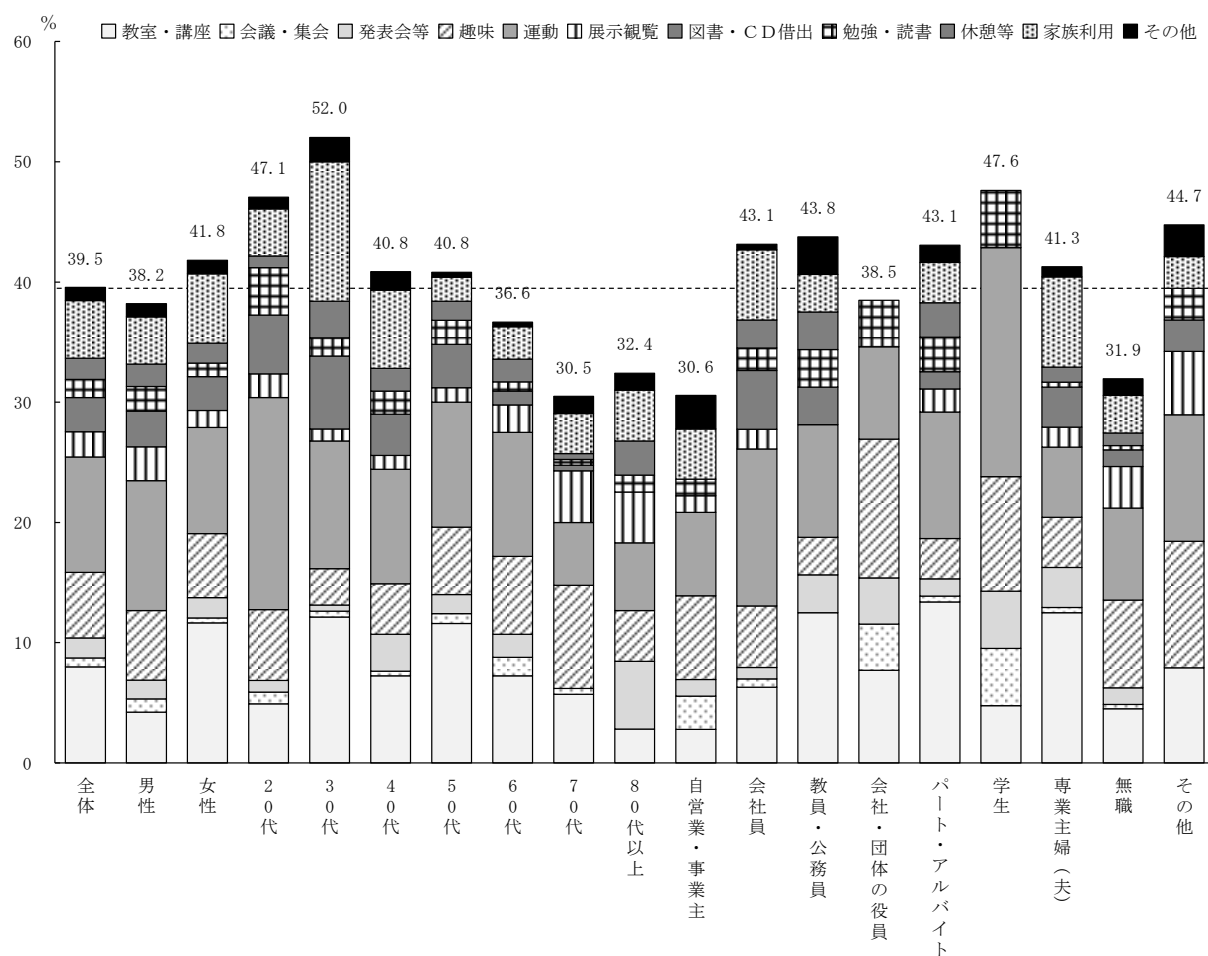


回答者属性別に活動意向がある人の割合をみると、性別では男性の38.2%に対して、女性は41.8%と活動意向率が高くなっている。年齢別では、30代(52.0%)、20代(47.1%)の意向率が高いのに対して、60代(36.6%)、70代(30.5%)、80代以上(32.4%)の高齢者では意向率が低くなっている。

職業等別では、会社員(43.1%)、教員・公務員(43.8%)、パート・アルバイト(43.1%)、学生(47.6%)などでは意向率が高く、自営業・事業主(30.6%)、無職(31.9%)では意向率が低くなっている。

活動内容については、20代は「運動」、30代は「家族利用」、会社員は「図書・雑誌・CDなどの借出し」などの意向が高いなど、回答者の属性によって活動意向は異なる現状にある。

図表3-24 回答者属性別にみた市内の公共施設を利用して行いたい活動（SA）



9 公共施設の評価

市民からみた市内公共施設に対する評価については、(1)施設数に対する評価、(2)施設スペースに対する評価、(3)施設のソフト面の評価、(4)施設のハード面の評価の4つを調査し、回答結果に得点を与えた加重平均を算出した。

加重平均の算定については、選択肢の加重値を定め、回答者の平均値を算出して評価値とした。加重値は、(1)施設数に対する評価については「とても多い」2点、「多い」1点、「適当である」0点、「少ない」-1点、「とても少ない」-2点、(2)施設スペースに対する評価については「とても広い」2点、「広い」1点、「適当である」0点、「狭い」-1点、「とても狭い」-2点、(3)施設のソフト面の評価及び(4)施設のハード面の評価については「とても満足している」2点、「ある程度満足している」1点、「どちらともいえない」0点、「あまり満足していない」-1点、「まったく満足していない」-2点とした。なお、「わからない」、不明は除外した。

(1) 施設数・施設スペースの評価

ア 施設数

市内公共施設の数についての評価値については、「①市民文化・コミュニティ系施設」(0.0)で、施設数が適当と考える人の割合が高いのに対して、「②生涯学習系施設」(-0.2)、「③スポーツ・レクリエーション系施設」(-0.5)、「④子育て支援系施設」(-0.3)、「⑤健康づくり系施設」(-0.4)、「⑥福祉系施設」(-0.4)では評価値がマイナスとなっており、施設数が少ないと評価する人の割合が高くなっている。

図表3-25 公共施設の数についての評価

区分	全体	とても多い	多い	適当である	少ない	とても少ない	わからない	不明	評価値
① 市民文化・コミュニティ系施設	1,376 100.0	25 1.8	80 5.8	722 52.5	117 8.5	20 1.5	331 24.1	81 5.9	0.0
② 生涯学習系施設	1,376 100.0	8 0.6	21 1.5	794 57.7	163 11.8	32 2.3	263 19.1	95 6.9	-0.2
③ スポーツ・レクリエーション系施設	1,376 100.0	13 0.9	21 1.5	491 35.7	346 25.1	90 6.5	322 23.4	93 6.8	-0.5
④ 子育て支援系施設	1,376 100.0	7 0.5	19 1.4	464 33.7	175 12.7	41 3.0	573 41.6	97 7.0	-0.3
⑤ 健康づくり系施設	1,376 100.0	8 0.6	10 0.7	567 41.2	228 16.6	54 3.9	421 30.6	88 6.4	-0.4
⑥ 福祉系施設	1,376 100.0	6 0.4	13 0.9	454 33.0	231 16.8	46 3.3	536 39.0	90 6.5	-0.4

(注) 評価値：「とても多い」2点、「多い」1点、「適当である」0点、「少ない」-1点、「とても少ない」-2点として加重平均を算出（「わからない」、不明は除外）

イ 施設スペース

市内公共施設のスペースについての評価値は、「①市民文化・コミュニティ系施設」(-0.1)、「②生涯学習系施設」(-0.3)、「③スポーツ・レクリエーション系施設」(-0.5)、「④子育て支援系施設」(-0.3)、「⑤健康づくり系施設」(-0.3)、「⑥福祉系施設」(-0.3)と、全ての施設で評価値がマイナスとなっており、施設のスペースが狭いと評価する人の割合が高くなっている。

図表3-26 公共施設のスペースについての評価

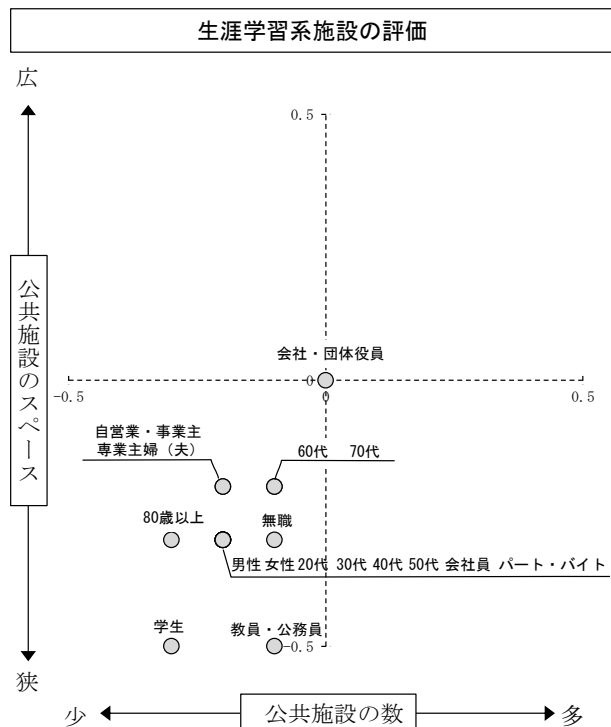
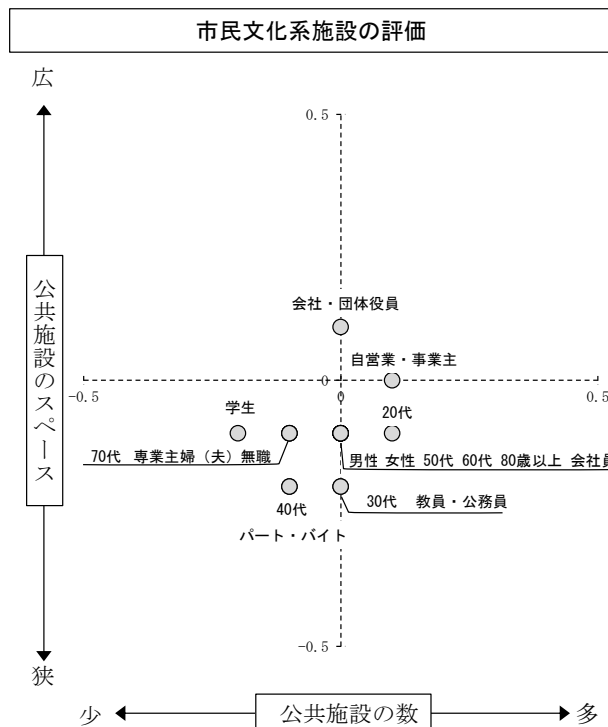
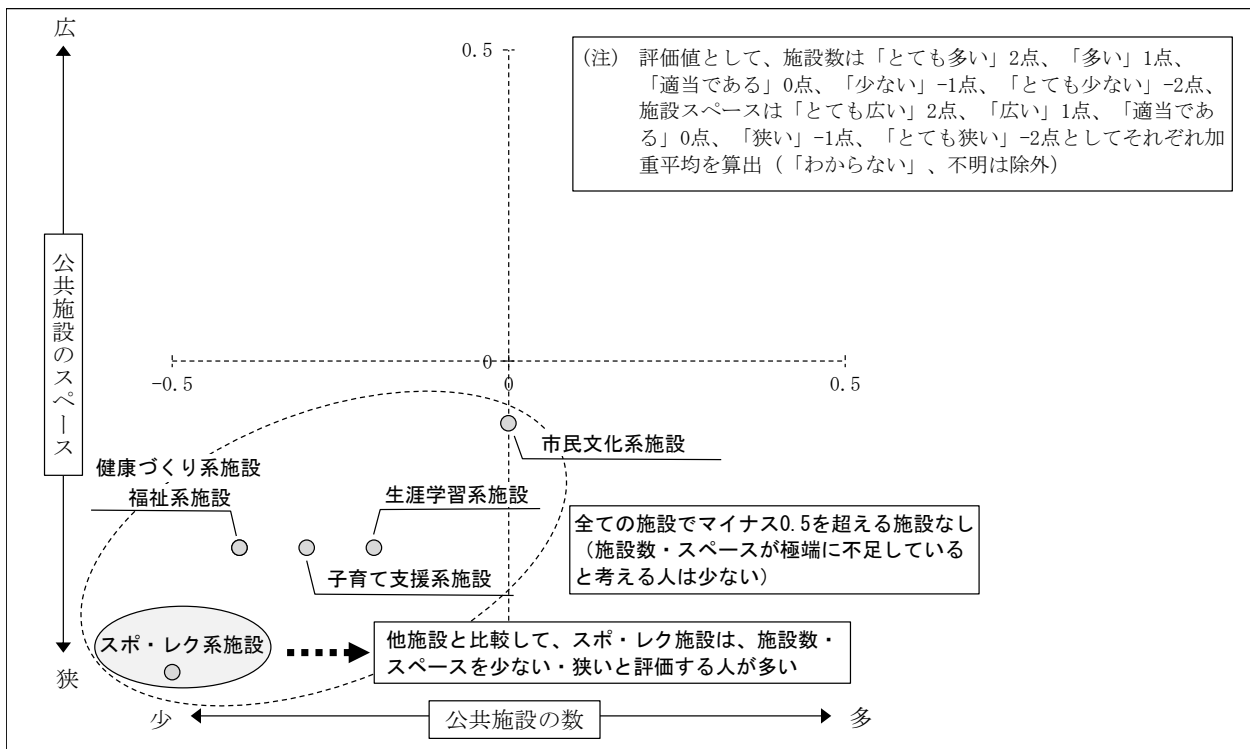
区分	全体	とても広い	広い	適当である	狭い	とても狭い	わからない	不明	評価値
① 市民文化・コミュニティ系施設	1,376 100.0	11 0.8	55 4.0	555 40.3	144 10.5	12 0.9	503 36.6	96 7.0	-0.1
② 生涯学習系施設	1,376 100.0	7 0.5	21 1.5	536 39.0	202 14.7	23 1.7	493 35.8	94 6.8	-0.3
③ スポーツ・レクリエーション系施設	1,376 100.0	9 0.7	15 1.1	377 27.4	327 23.8	70 5.1	488 35.5	90 6.5	-0.5
④ 子育て支援系施設	1,376 100.0	6 0.4	5 0.4	381 27.7	157 11.4	31 2.3	694 50.4	102 7.4	-0.3
⑤ 健康づくり系施設	1,376 100.0	6 0.4	10 0.7	449 32.6	167 12.1	30 2.2	618 44.9	96 7.0	-0.3
⑥ 福祉系施設	1,376 100.0	6 0.4	17 1.2	380 27.6	145 10.5	22 1.6	717 52.1	89 6.5	-0.3

(注) 評価値：「とても広い」2点、「広い」1点、「適当である」0点、「狭い」-1点、「とても狭い」-2点として加重平均を算出（「わからない」、不明は除外）

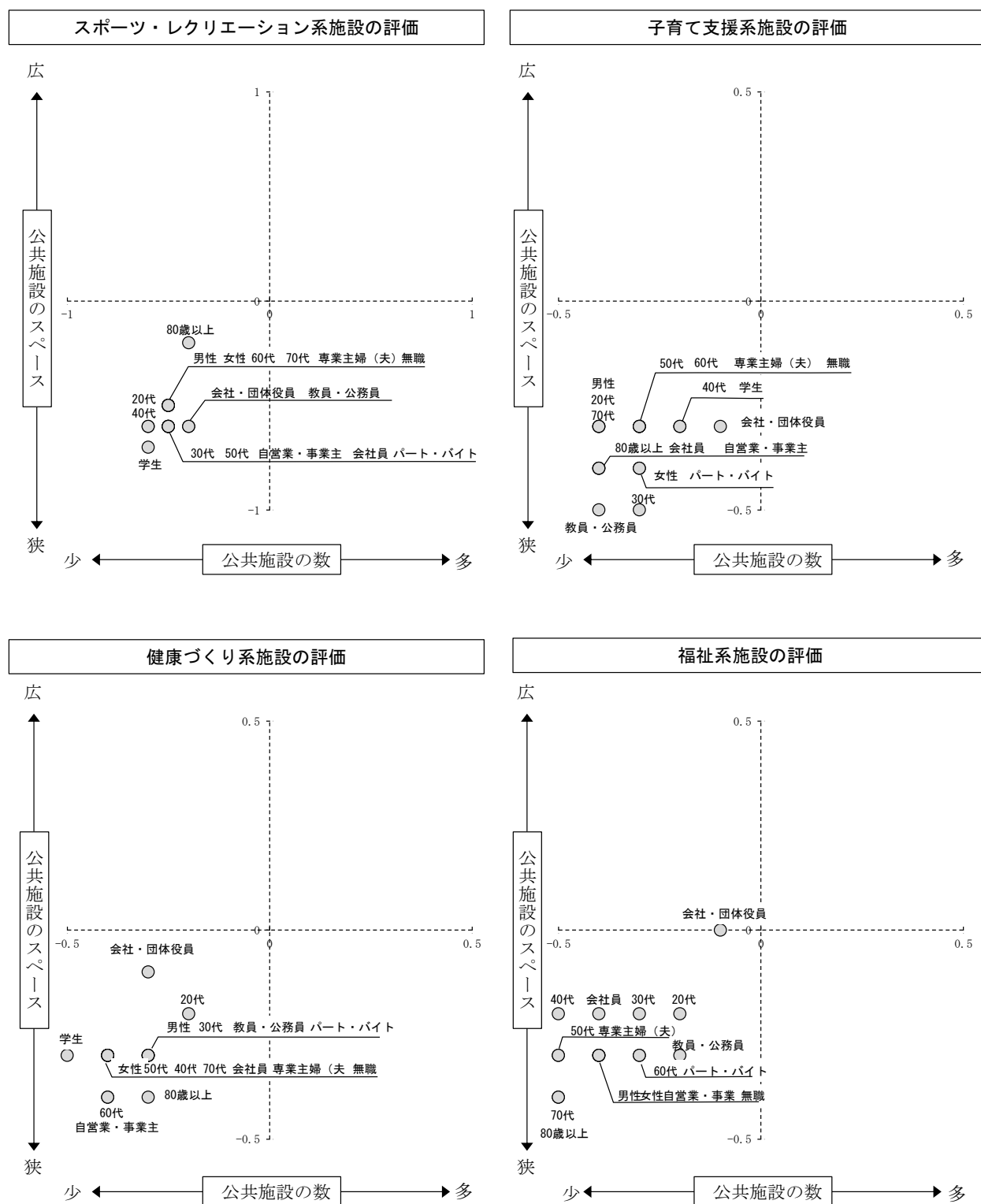
ウ 施設数・スペースの総合評価

施設数・スペースともに評価値が±0.5を超えるものはなく、施設需要に対する評価はおおむね「適当」と考える人の割合が高くなっている。ただし、施設数は市民文化系施設を除く全ての施設で、施設スペースは全ての施設では「少ない」又は「狭い」と評価する人が多く、特にスポーツ・レクリエーション系施設では強くなっている。

図表 3-27 公共施設の数・スペースについての評価



図表3-28 公共施設の数・スペースについての評価



(2) ソフト面・ハード面の満足度

ア ソフト面

市内公共施設のソフト面（管理運営やサービス、機能、人員配置等）についての評価値は、プラスの評価は、「①市民文化・コミュニティ系施設」(0.2)、「②生涯学習系施設」(0.2)、「④子育て支援系施設」(0.1)、「⑤健康づくり系施設」(0.0)、マイナスの評価は、「③スポーツ・レクリエーション系施設」(-0.2)、「⑥福祉系施設」(-0.1)となっている。

図表３－２９ 公共施設のソフト面についての評価

区分	全体	とても満足している	ある程度満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	わからない	不明	評価値
① 市民文化・コミュニティ系施設	1,376 100.0	18 1.3	255 18.5	279 20.3	99 7.2	20 1.5	618 44.9	87 6.3	0.2
② 生涯学習系施設	1,376 100.0	24 1.7	267 19.4	257 18.7	112 8.1	33 2.4	587 42.7	96 7.0	0.2
③ スポーツ・レクリエーション系施設	1,376 100.0	10 0.7	172 12.5	239 17.4	183 13.3	64 4.7	617 44.8	91 6.6	-0.2
④ 子育て支援系施設	1,376 100.0	19 1.4	149 10.8	201 14.6	97 7.0	27 2.0	783 56.9	100 7.3	0.1
⑤ 健康づくり系施設	1,376 100.0	12 0.9	167 12.1	243 17.7	125 9.1	39 2.8	697 50.7	93 6.8	0.0
⑥ 福祉系施設	1,376 100.0	9 0.7	129 9.4	224 16.3	111 8.1	45 3.3	771 56.0	87 6.3	-0.1

(注) 評価値：「とても満足している」2点、「ある程度満足している」1点、「どちらともいえない」0点、「あまり満足していない」-1点、「まったく満足していない」-2点として加重平均を算出（「わからない」、不明は除外）

イ ハード面

市内公共施設のハード面（建物躯体、設備等）についての評価値は、プラスの評価は「①市民文化・コミュニティ系施設」(0.2)、「②生涯学習系施設」(0.1)、「④子育て支援系施設」(0.0)、「⑥福祉系施設」(0.0)、マイナスの評価は、「③スポーツ・レクリエーション系施設」(-0.4)、「⑤健康づくり系施設」(-0.1)となっている。

図表3-30 公共施設のハード面についての評価

区分	全体	とても満足している	ある程度満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	まったく満足していない	わからない	不明	評価値
① 市民文化・コミュニティ系施設	1,376 100.0	27 2.0	294 21.4	234 17.0	147 10.7	25 1.8	558 40.6	91 6.6	0.2
② 生涯学習系施設	1,376 100.0	20 1.5	258 18.8	257 18.7	184 13.4	28 2.0	533 38.7	96 7.0	0.1
③ スポーツ・レクリエーション系施設	1,376 100.0	10 0.7	168 12.2	216 15.7	251 18.2	101 7.3	537 39.0	93 6.8	-0.4
④ 子育て支援系施設	1,376 100.0	10 0.7	159 11.6	209 15.2	97 7.0	29 2.1	770 56.0	102 7.4	0.0
⑤ 健康づくり系施設	1,376 100.0	9 0.7	174 12.6	232 16.9	146 10.6	44 3.2	674 49.0	97 7.0	-0.1
⑥ 福祉系施設	1,376 100.0	7 0.5	151 11.0	213 15.5	123 8.9	33 2.4	754 54.8	95 6.9	0.0

(注) 評価値：「とても満足している」2点、「ある程度満足している」1点、「どちらともいえない」0点、「あまり満足していない」-1点、「まったく満足していない」-2点として加重平均を算出（「わからない」、不明は除外）

ウ ソフト面・ハード面の総合評価

ソフト・ハードの両面の満足度については、全ての施設でマイナス0.5を超える施設はみられず、大きな不満を有する人の割合は低くなっている。

施設種別では、市民文化系施設、生涯学習系施設はハード・ソフト両面の満足度が高く、反対にスポーツ・レクリエーション系施設では満足度が低くなっている。

図表 3-3-1 公共施設のソフト面・ハード面についての評価

